

今こそ聞きたい!

決済高度化入門

第1回

なぜ今、決済高度化なのか

少数精鋭の 社会の黒子

昨年9月、地震の影響によって北海道全域で連鎖停電が起きた。この広範囲なブラックアウトによって電気のない暮らしを余儀なくされ、普段はあまり考えたことのない電気のありがたさにあらためて気が付いた人も多かったのではないだろうか。

電気、ガス、水道のように、人々の活動を支える基盤のことを、一般に「社会インフラ」と呼ぶ。本連載で取り上げる「決済システム」も、当事者間の「決済」（資金の支払い）が円滑に行われるようにする仕組みであり、これなしでは人々の経

済活動が成り立たないという意味で、社会インフラの一つである（図表1）。

社会インフラの特徴として、

「うまくいっているときには誰も気にかけないが、何か支障が発生すると社会的に大きな影響が出る」という点がある。つまり、普段は見えないところで地道に経済活動全体を支えており、その存在が意識されることは少ないのだ。とりわけ決済システムは、主として中央銀行や金融機関の「限られたプロフェッショナル」が担ってきたため、その重要性の割には、一般の人が意識することは少ない、いわば「縁の下の力持ち」（ビハインド・ザ・シーン）的存在だった。

決済高度化が注目される 五つの「うねり」

最近、その決済システムに注目が集まっており、「決済高度化」が話題になってきている。なぜ今、決済高度化なのだろうか（図表2）。

第1に、コンピュータやネットワークなどのITの発達が挙げられる。ITの進展により、リアルタイムでの送金処理や24時間365日の決済、複雑なアルゴリズム（処理方法）に基づく決済指図の処理などが可能となり、これらを組み合わせることにより、続々と高度な決済システムが登場してきている。

第2に、決済リスクの高まり

麗澤大学
経済学部 教授
中島 真志

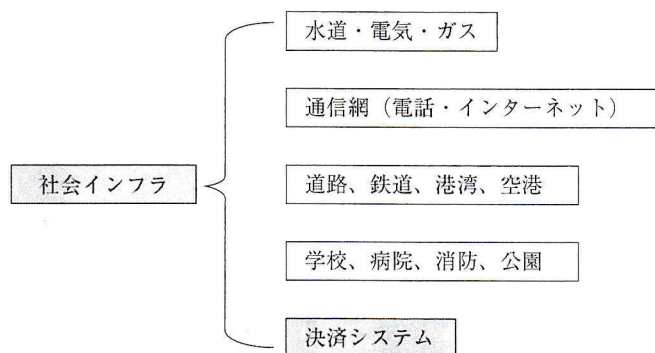


がある。主要国の決済システムにおける年間の決済額は、各国の名目GDPの50〜80倍ほどにも上る。つまり、決済システムにおけるわずか1週間での決済額が、国内の総生産額の1年分にも匹敵するのである。このことは、それにつれて、不測の事態によって決済が円滑に行われなかった場合の「決済リスク」が増大していることを意味しており、それを適切にコントロールすることが決済システム高度化の大きな目的となっているのである。

第3に、決済ビジネスに対するノンバンク・プレーヤーの進出がある。これまで、資金決済機能は、決済用の「口座」を有

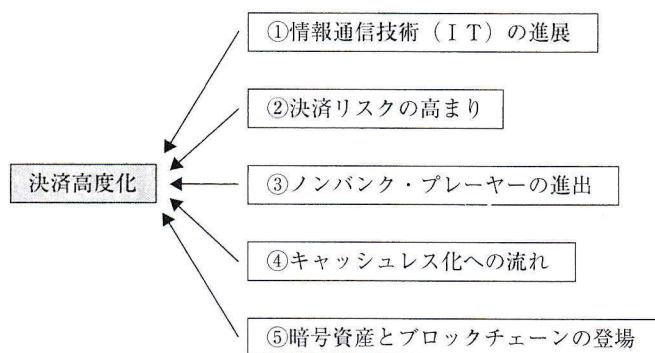


〔図表1〕 社会インフラとしての決済システム



する銀行の独壇場となっていた。これは、銀行が預金や貸出を通じて、資金提供機能・資産変換機能・情報生産機能などを果たす中で、資金決済機能をそれらと一体不可分なものとして提供していたためである。ところが、フィンテック企業などでは、このように一括して提供されていた金融機能を「アンバンドリング」（分解）して、資金決済サービスに特化した機能を提供するようになっている。こうした

〔図表2〕 決済高度化の背景



フィンテック企業の進出やそれに伴う金融機能のアンバンドリング化も、決済高度化に大きな影響をもたらしている。第4に、キャッシュレス化への関心の高まりである。現金による支払い、消費者、小売店、銀行などに多大なコストをもたらしているという認識が広まっている。こうしたなか、便利ナリテールの決済手段が次々と導入されていることもあり、世界的にキャッシュレス化の動きが

進展している。この動きを後押ししている二つの大きな要因がある。

一つ目は、スマートフォンの普及である。スマホの台数は、2018年末には世界で52億台に達しており、途上国も含めた世界の全人口の10人に7人がスマホを利用している。つまり一人ひとりがカメラ機能の付いた小型のコンピュータを持ち歩くようになっており、これによって多様なリテール決済のサービスが可能となっているのである。

二つ目が、「QRコード」による決済の普及である。従来のクレジットカードや電子マネーなどでは、まず小売店側に決済端末の導入が必要になるという初期コストの問題があり、これが普及の妨げとなっていた。これに対してQRコード決済では、紙に印刷したQRコードを店頭に貼り付ければよいので、専用の決済端末は不要である。このQRコード決済の爆発的な普及により、中国がモバイル決済の先進国となっていることは、既知の事実である。

第5に、ビットコインを始め

とする暗号資産や、その技術基盤となっているブロックチェーンの登場である。ビットコインは、もともと銀行の関与なしに世界中にお金を送ることができるようになることを目的として開発されたものである。また、ビットコインを支える中核技術であったブロックチェーンは、現在は独立した技術として、さまざまな金融サービスへの応用が図られており、決済サービスにも影響を及ぼそうとしている。

決済高度化を ビジネスチャンスに

このように、さまざまな要因により、決済高度化に対する関心が高まってきている。とかくノンバンク・プレーヤーの「攻め」に対して銀行の「守り」といった文脈で語られることが多いが、決済高度化は、銀行にとって新たなビジネスチャンスとなる可能性もある。

本連載では、決済高度化の歴史をひもとき、機能を概観しつつ、その未来像を紹介していくこととしたい。

